

東南部アフリカにおける農業農村の振興手法と課題

Method and Tasks of Rural Development in Southeast Africa

新保 義剛
SHIMBO Yoshitake

1. はじめに

東南部アフリカにおける小農の営農形態は主として天水農業であり、その抱える課題としては干ばつのような自然条件に加え、内乱や紛争、経済政策の失敗、域外経済の悪影響といった人的要因が指摘されてきた。また、アフリカの中でも、サハラ砂漠以南のサブサハラでは、5歳の誕生日を迎える前に死亡する子供の死亡原因の7割は下痢や肺炎等であり、それは、主として慢性的な栄養不足や飲料水の劣悪な水質に起因すると思われる。

このような状況を改善するためには、農業生産の質的量的向上や複合的な営農の導入、流通システムの整備と共に、清浄な飲料水の確保等の基礎的な生活環境の向上が緊急の課題である。東南部アフリカの大部分を占めるサバンナの農業農村には表-1に示すような特徴がある。このような地域の特徴を把握し、適切な技術導入や農業生産と一体となった農村の振興が必要である。

ここでは技術協力の対象としての小農を中心に南東部アフリカの農業農村振興について報告する。

表-1 アフリカ・サバンナ地域の特徴

Table 1 Characteristics of Rural Area of Savanna Area in Africa

農業農村から見たアフリカ・サバンナ地域の特徴
1. 洪水も発生するが、干ばつの被害が最も深刻である。
2. 主食は多彩である（メイズ・小麦・ミレット・ソルガム・バナナ・陸稲・水稲等）。
3. 主食穀物価格は政府の統制下にあるものが多いが、市場で決まるものもある。
4. 畜力の利用は限定的である（農耕民族と牧畜民族の区が比較的はっきりしている地域がある）。
5. 地域共同体より、地縁・血縁・同族的組織が強い（地域としての資源管理が不十分）。
6. 農業改良普及を含む公務員システムの機能が低い。
7. 小農では、主食を含め、粗放農業に近い場合がある（一部の商品作物・野菜生産では集約的）。
8. 壊滅的な病虫害は少ない（砂漠バッタは除く）。

2. 農業農村の振興方策

東南部アフリカには、表-2に示すとおり、日本が長く技術協力してきたアジア・モンスーン地域とは異なる課題や阻害要因があり、この点を踏まえた農業農村振興に取り組む必要がある。

これらの課題は小農に特有のものであるが、現地の小農の形態には多様性があり、また、個々の能力にも差異がある。これらに留意しながら、振興方策を検討する必要がある。

表－2 農業農村振興上の課題と方策 / Table 2 Tasks and Method of Rural Development

課題	方策
1. 農産物の輸出価格の下落 特に換金作物（コーヒー、ココア、綿花等）	生産作物多様化、高品質化、新品種導入（試験展示圃の充実）、作物転換
2. 政治不安・内戦等による難民化・施設破壊	農民帰還支援、地雷除去
3. ガバナンス不在、農業軽視、市場操作による低価格政策、流通システムの不備による低価格	国民的意識の醸成、人材育成、補助金活用、マクロ経済の見直し、流通の改善
4. 土地利用制度に起因する生産意欲減退 （広大な商業農園と零細小農の2極分化）	小農への生産技術支援、農業改良普及システムの充実、収入機会創出
5. インフラ未整備（飲料水、灌漑、ポテトハーベスト、資材・生産物流通、市場、情報）	農業農村投資の増加、基幹的生産システムへの政府関与、域内貿易促進、民間企業育成

3. 農業農村振興のための適正技術

小農をターゲットとする技術協力としては、例えば、乾季に灌漑を導入、市場向け園芸作物により現金収入の機会を創出し、小農のやる気を引き出して持続可能な農業の展開を目的とするものがある。今後は、これまで実施されてきたような大規模な灌漑事業ではなく、小規模でもリスクを分散させた複合的な技術の導入が必要であろう。

活用可能な技術の区分とその具体的な内容を表－3に示す。また、小規模灌漑の例として1台で10a程度をカバーできる足踏みポンプを写真－1に示す。



写真－1 足踏みポンプ Photo 1 Pedal Pump

表－3 活用可能な技術 / Table 3 Practical Technique

区分	具体的内容
1. 現地開発型技術	ウォーターハーベスティングのような小規模な水資源利用 現地発生材等の現地で調達可能な資材を利用した施設築造技術
2. 現地適応型ソフト技術	住民参加型施設・営農・地域資源管理技術 小農レベルから政府高官にいたる各層における合意形成手法
3. 現地適応型営農技術	アフリカ向け陸稲新品種：ネリカ（New Rice for Africa）栽培技術 複合的な営農技術（輪作、混作、アグロフォレストリー） 小農でも実施可能な堆肥生産手法 現金収入機会創出のための小動物・家きん、加工型園芸作物導入

4. おわりに

主食の安定的な確保が、安心できる生活と健康維持のために重要であることはいままでもない。しかし、政府が統制する市場では主食穀物の価格は低い場合が多い。そのため、主食穀物の増収への意欲と現金収入の機会創出は両立しないことがある。このような点をも踏まえて将来を見通さないといけないところに難しさがある。